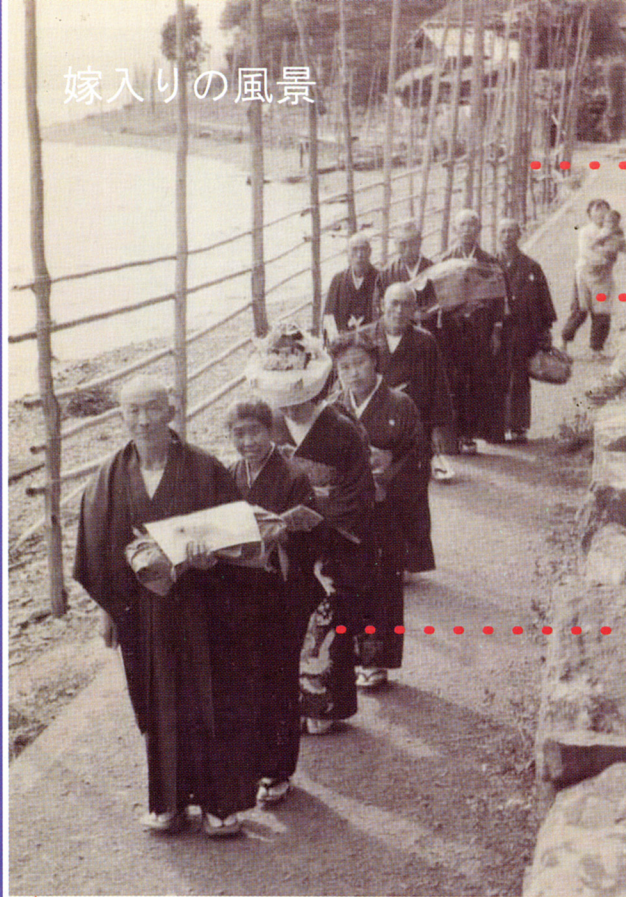


嫁入りの風景



集 落付近の浜には稲を干すハサがずらっと並んでいました。集落から離れた水田で刈り取った稲を田舟で持ち帰り、各家決まったハサにかけて干しました。

新 婦を見にきた人。菅浦にやってきた新婦をよく見ようと、行列の前に石や木を持ち出して、立ち止まらせることもあったといいます。

新 郎側の迎えに従って嫁入りする新婦。ちょうど西の四足門にさしかかるところです。外から嫁ぐ場合、菅浦の人たちへの顔見せのため、少し離れたところで乗物から降りて、新郎宅まで歩きます。

東の川の名残



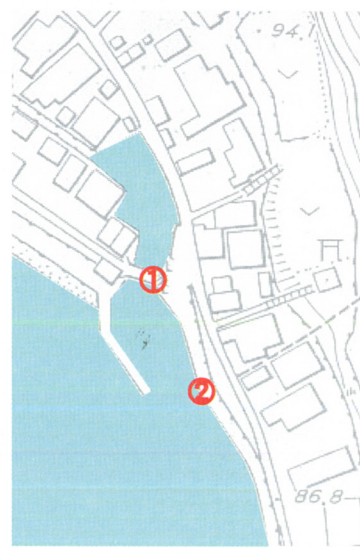
①東の川に木の橋がかかっていました。今でも橋のたもとにあった松と道祖神が残っています。



②東の川は埋立てられました。突堤や石垣は残されました。かつてのハサも支柱だけですが残っている場所もあります。



生活様式が変われば景観も変わります。舟から車へ交通手段が変わり、さらに新しい舟溜まりができると、東の川は埋立てられることに。ただ、そこかしこでかつての景観をうかがい知ることができます。みなさんも探してみてください。

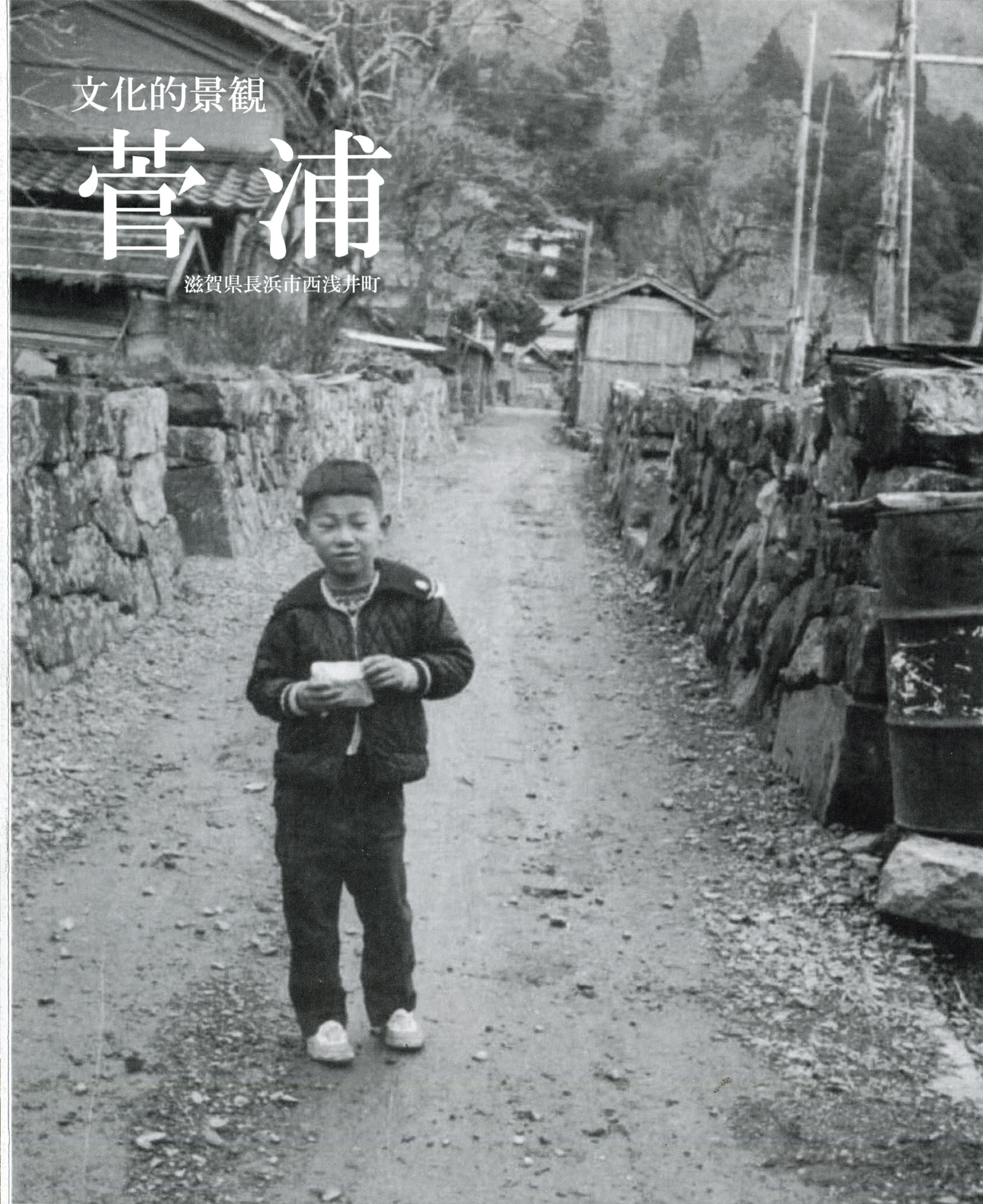


西浅井総合整備計画基本図（昭和55年撮影、昭和56年測図）をもとに作図

文化的景観

菅浦

滋賀県長浜市西浅井町



菅浦の思い出 今・昔 散策マップ

このマップでは、昭和三、四〇年代の菅浦の写真をとおして、土地に込められた人々の思いを知っていただきたいと思えます。栈橋で出漁しようとする人や、浜で物干しをする女性、にぎやかに練り歩く祭りの行列・・・菅浦の景観がもつ豊かな意味や営みを、散策しながら感じてください。



1 西の四足門。集落の境界を示す菅浦のシンボリック的存在。現在集落の東西に四足門が残されています。



10 近江屋の栈橋。近江屋という魚の加工をする店の近くにあった栈橋。係留する舟にはオイサデ漁に使う追い棒や小エビをとるエビタツベを載せています。



12 嫁入り。昭和初期まで菅浦内での結婚が大部分でしたが、戦後は他所からの嫁入りが増えました。



11 コサプロの浜。栈橋より小さく洗い場に利用された板をウマと呼びました。



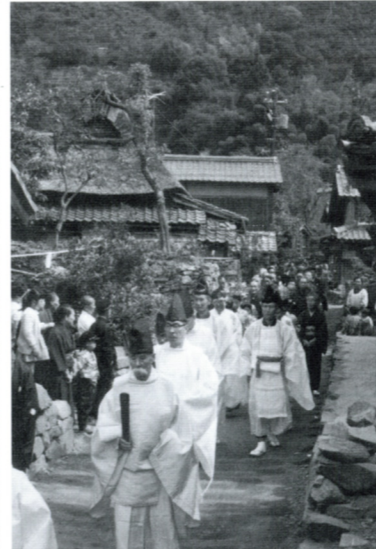
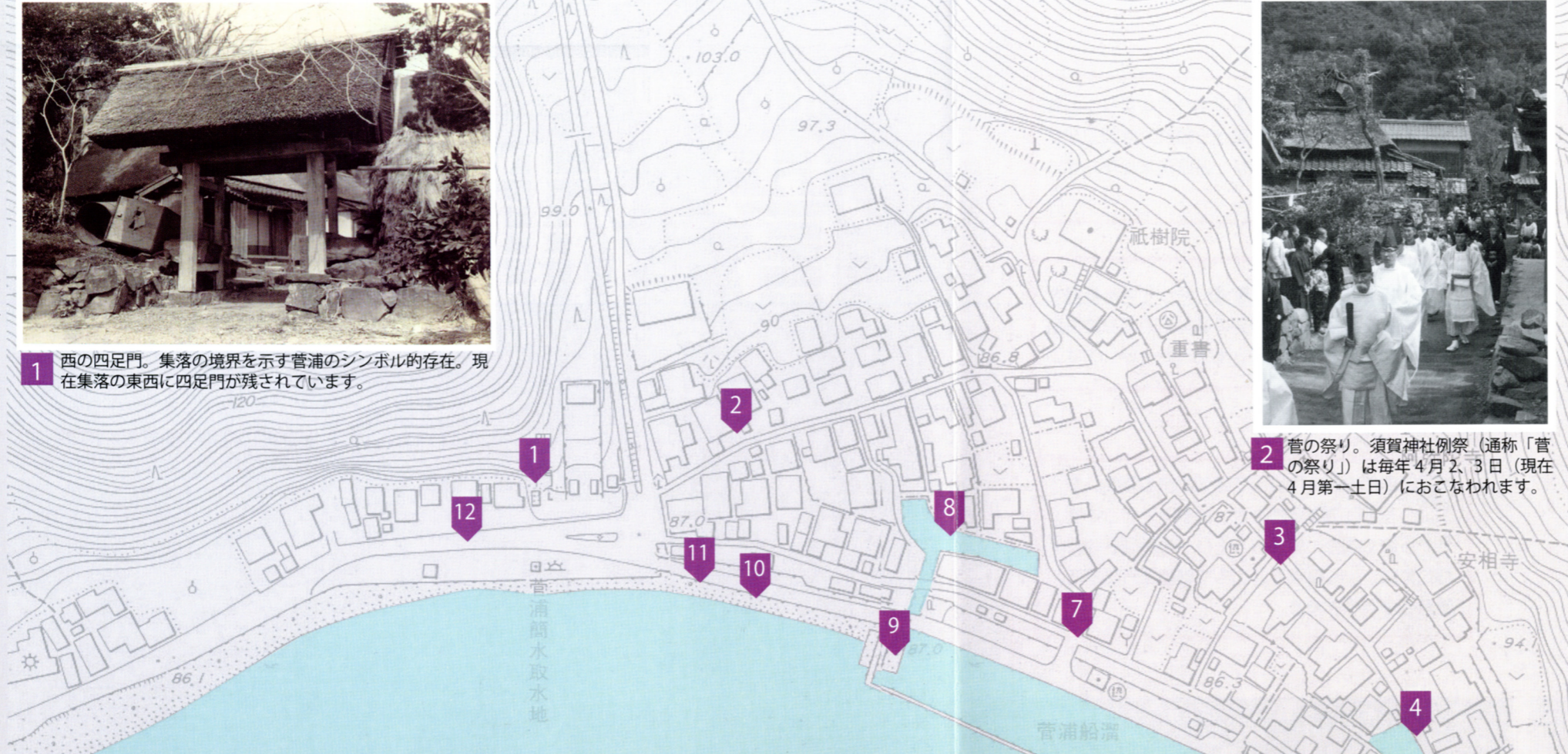
8 西の川。今は埋立てられていますが、昭和50年代まで集落の東西に舟溜まりがありました。写真は西の川といわれた舟溜まり。子どもの遊び場にもなっていました。



9 ヤゲジの浜。ヤゲジとは近くにある家の屋号「弥源治」からきています。稲を干すハサに服を干す女性があります。



7 ハマミチ。両側に石積がある湖沼いの道。今でもこの風景はあまり変わっていません。



2 菅の祭り。須賀神社例祭(通称「菅の祭り」)は毎年4月2、3日(現在4月第一土日)におこなわれます。



3 シンクロの前。シンクロとは、近くにある家の屋号「新九郎」からきています。菅浦では屋号で呼び合う習慣が現在でも残っています。



4 東の川と代官屋敷。神輿渡御が旧代官屋敷の前を通る場面です。代官は江戸時代に膳所藩が在り地管理のために任命した役です。屋敷には四足門に似た門が建ち、屋敷の前には東の川という舟溜まりがありました。



5 東の川。岸には稲を干すハサ、洗い場のウマなどが所狭しとあります。かつて水辺は大変生活感のある場所でした。



6 東の四足門。集落の東端にある四足門。